

仲町屋台（八朔屋台）

仲町が所有する屋台は、最初は 1816 年に作られましたが、その主な飾幕は 18 世紀半ばにさかのぼります。屋根は、弓型の入母屋造りの切妻が特徴で、屋根の上には、竜と不死鳥の装飾が施されています。

仲町屋台の飾幕は、狩野派の侍画家、鳥文斎藤原栄之(1756～1829)による絵が特徴です。「桜に駒」（英語では「春の馬」と表現）という題の絵は、満開の桜の木につながれた馬を表しています。自由になろうと、馬がもがくことで、桜の花が辺り一面に散るという、一瞬の美しい光景、はかなさの縮図です。この絵の 600 枚以上の桜の花びらは、金糸で刺しゅうされています。

2001 年、都留市の要請で仲町屋台の復元が始まり、高山祭屋台保存技術協会や地元の職人によって実施されました。この屋台の復元は、2003 年に完了しました。